

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の基本理念として「明るく・楽しく・美しく」があり、共通してこれを目指している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者様にとって居心地の良いアットホームな雰囲気作りを心掛ける。また利用者様にとってかけがえのない日々を送っていただけるように努める。純粋な心を忘れずに、清潔感溢れるホームで快適な生活を送って頂けるように努める。	○	毎週水曜日、法人本部で行なわれる朝礼に全職員が満遍なく出席できるよう調整し、理念の唱和を行なう。これにより職員間での意識を高め共有していけるよう努める。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関やパンフレット・機関紙「ももたろうだより」に理念を掲示すると共に、地域の福祉便りに記事を掲載させて頂いている。	○	左記の内容だけでなく、運営推進会議などで説明したり、地域の福祉便りへの記事掲載を継続させて頂く事で理念の浸透を図る。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内の共有場所の清掃や行事の時には利用者様と一緒に参加させて頂いている。又職員達も通勤途中、犬の散歩をされている方と犬を通じて顔見知りになり挨拶や簡単な雑談程度の会話をさせて頂けるようになった。	○	天寿独自での行事などの時にはお声を掛けて、グループホーム天寿の皆様のご様子を見ていただける機会を持ち、それをきっかけに普段からでも行き来していただけるような関係作りに繋げたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、町内や地域の行事には参加させて頂いている。	○	運営推進委員メンバーの方より定期的に行事のご案内を頂いている為、利用者様と一緒に参加可能なものには積極的に参加させて頂くよう努める。

グループホーム天寿

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進委員会議で地域のご要望を伺っている。	○	土・日の併設通所介護「天寿デイサービス」の定休に合わせて開いている空間を活用頂ける様、運営推進委員会議で相談・検討を行い地域貢献できるよう努めていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票の項目とその内容については職員全員に閲覧させている。又自己評価した内容についてはそれぞれが担当している業務について関連性のある内容であればその職員に記入させている。外部評価を受ける意義については会議内で議題とした。	○	外部評価を機に全職員が現状のサービスの質に関する改善点に気づき、どのように改善していくべきか同じ課題・目標を持って取り組んでいけるよう努力する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域行事への参加や地域の機関紙で事業所紹介記事を掲載して頂く等、地域との交流についてご支援いただいている。又会議では当事業所が抱える課題についても報告し、サービスの質の向上、またはサービス低下を防ぐ為のアイデア等ご助言を頂いている。	○	今後も抱えている課題については第三者からの冷静な意見としてご助言頂けるよう、運営推進会議では報告・相談させていただく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行き来する機会はない	○	事業者連絡会等への参加に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員間での認識が薄く、周知徹底できていない。	○	外部研修への参加、伝達研修として勉強会を開くなどして基本的な知識を身につけていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めている。	○	管理者が先頭となって研修などに参加し、虐待の原因となるものを早期解消、解決できるよう努めていく必要がある。

グループホーム天寿

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に必ず内容を説明し、ご理解・納得頂いた上で契約している。</p>	<p>○</p> <p>これまで以上に解り易く、ポイントを抑えてののご説明をさせて頂けるよう時間配分などにも注意する。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置したり、直接五家族様ご意見をお聞きしている。</p>	<p>○</p> <p>年2回の家族会には親睦を深めることにとらわれ過ぎないで、入居者様とご家族のご意見が述べて頂きやすい雰囲気作りにも留意していく必要がある。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や電話連絡、家族会の時に口頭でのご報告を中心として管理者・計画作成担当者・居室担当が中心となっている。</p>	<p>○</p> <p>面会機会の少ない御家族様には文章での報告も心掛けていくよう留意する。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情受付についての概要を掲示している。意見箱も設置している。苦情があった場合は受付者が報告書を作成し、上司に報告し、その後職員間で改善策を話し合い、今後の運営に反映する事している。</p>	<p>○</p> <p>意見箱の設置はあるものの、ご家族から苦情が言い出しにくい状態であり、苦情を伺うことが少ないのが実際である。今後改善策を練る必要がある。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月第1水曜日には施設長も交えての「天寿会議」を開催している。又、第3水曜日にはケアカンファレンスを開催し、意見、提案が出来る機会を設けている。また普段からも日常的な会話や利用者様のケアや運営についての相談を管理者から行う機会が多い。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>季節毎、入居者様の状況に応じて会議で話し合い、勤務体制や時間帯調整などについて変更、実行している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>同法人内において2～3年毎に人事異動があるが、職員の選定には配慮いただいている。</p>	

グループホーム天寿

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修は年間計画を立てて行われている。その他にも外部研修に参加できる機会もある。外部研修については職員本人からの希望があれば勤務調整を行い積極的に受講できるよう配慮はしている。また管理者の選定にてその職員に必要と思われる研修に推薦するなどの工夫もしている。</p>	<p>○</p> <p>外部研修を受講しても「伝達研修」が確実に行えていない事があり、現場で活かされないことがある。施設内において伝達研修や勉強会を開催できる機会の確保について尽力する必要がある。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>出来ていない。</p>	<p>○</p> <p>外部研修や事業者連絡会、GH協議会への出席機会を増やしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>公休希望を聞き、できる限りそれを反映できるように努めている。互助会の親睦行事の案内も行っており参加できるよう努めている。また個別に気軽な雰囲気の中で話しができるように努め、雑談の中からそれらを汲み取れるよう努力している。</p>	<p>○</p> <p>全ての職員が満遍なく有休休暇が取りやすい勤務体制を作る。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>通常の勤務時の様子や会議で各職員が興味を持っている事、取り組みたいと思っていることがあればそれを遂行する為の「担当」とし、向上心をもって取り組めるように心掛けている。また何か新しい事を実行しようとする時や年間の各担当者は会議で報告し、立候補制でその担当者を決定するように工夫している。</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご入所頂く前には必ずご本人様とお話し、お話を伺う機会を作っている。またご入所の相談を受けた場合には、可能な限り施設見学にきて頂き、その時のご様子、表情よりお気持ちを感じ取れるよう努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族様の思いや、ご苦勞されている事、お求めになられていることを伺い受け止められるよう努めている。必ず入所申請されるまえには一度ご見学に来ていただけるようお勧めし、安心していただけることから始められる関係作りを目指し、努めている。</p>	

グループホーム天寿

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に必ずご見学頂くようお願いをしている。その上でグループホーム入所が最善であるかどうか他のサービス利用も視野に入れての対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が日課とされている事、得意な事、趣味など生活歴を事前にご家族様またはご本人から伺い、入所当日からそれらをご本人が実践できるよう準備している。またご本人様が環境に慣れられるまではご家族様への生活歴などの質問が多くなる旨お伝えし、了承を得た上で電話などでご相談させていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が保護的立場に立つのではなく共に生活する者として年長者である利用者に家事や生活の知恵を教えるべく関係を築くように努めている。また時には冗談を言い合いながら大声で笑えるような一緒に明るく楽しく同じ時間を過ごせるように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事へのご参加やご協力、その他の外出、病院受診同行、日用品のご準備や物品の入れ替えなどご家族様とご本人様との関わりを多くもって頂くようお願いし、ご協力頂いている。また細かな本人様の状況報告を心掛けて、今後のケア方針や内容の変更について相談させて頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所後も面会時やお電話でライフストーリーやご家族関係その他の情報収集は行っている。また文字が書けるかたには日記をつけて頂けるよう支援したり、ご家族宛にハガキにお手紙を書いてもらい送って貰いご家族様にはお返事を書いて頂けるようお願いしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の入居者様ではあるが馴染みの方との連絡や面会はされている。	○	ご家族様のご協力を得て、より多くの方との関係が維持できるよう努めていく。馴染みの場所への外出も情報収集と合わせてご家族様に協力頂き出かけて頂きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に洗濯物を干したり畳んだり、食事の準備、片付けをして頂く共同作業を通じて関係作りを行えるよう配慮している。また午前11時頃より毎日歌の合唱や体操を行い、集団レクリエーションを行う機会を持っている。		

グループホーム天寿

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	出来ているとはいえない。	○	季刊誌発行に当たってはお送りさせて頂くようにする。また行事案内もさせて頂き、退所されたあとも通ってきやすい場所であるよう努めていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思伝達の出来る、出来ないに関係なく、本人様の日常での会話や表情・行動に留意し、観察・検討し、意向を理解し実践できるよう努力している。	○	希望や意向をケアに反映できるよう努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前からの家族・本人からのライフヒストリーをアセスメントし、入所後も普段の会話より情報として取り入れている。	○	センター方式のシートを全員が記入できるようになり、普段の生活からケアのヒントを引き出せるように努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中での会話・行動・表情を記録しそこから現状の精神的状態把握に努めている。また職員伝達用の「申し送り簿」を活用し、細かな生活現状を全職員が理解できるようにしている。	○	「気付き」の力を職員が向上させなければならない。また記録・伝達をより確実に行い、ケアの統一を図っていかなければならない。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、現在特に課題となる事柄や利用者個々の状態について多くの職員の意見や、アイデアを出し合い・検討しケア計画に反映させている。	○	今後も定期的なカンファレンスは必要。現在の問題点を解決しケアの向上を目指し、ワーカー全員の介護レベルの統一とアップを図る。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間中にケアの変化・気付き等が発生したときは、居室担当と計画作成担当者が話し合い、緊急な場合は電話で家族に相談の上介護計画の見直しをしている。	○	電話でのやり取りが中心となる家族様もあり、もっと面会機会を増やしていただき、本人様も交えた介護計画の見直しを行えるようにしたい。

グループホーム天寿

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時には業務記録を確認し、日々の生活の状況把握に努めている。気づきがあれば居室担当者とケア内容を日々検討している。どんなことでも可能性があるならば検討内容を実践し、結果をみるよう努めている。	○	自然体で生活リズムを掴み、安心して生活が継続できるよう本人の残存機能を引き出し、意欲低下の防止に繋がるようなケアの実践。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の天寿デイサービスと合同の行事を増やしたり、季節に合わせて行司の企画・立案・実行が出来るようになってきた。民生委員を通し地域の行事には大小問わず参加させて頂いている。入居者様も楽しみにされている。	○	今年度よりグループホーム天寿独自で新聞を作成、発行している。これにより家族や協力事業所、地域の方に天寿を知っていただき、より地域、家族との柔軟な体制作りを図っていけるよう努めている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	傾聴ボランティア、生け花ボランティア・書道ボランティアにお来し頂いている。地元消防署の協力を得て年1回の消防訓練を実施している。	○	今年度は2回の消防訓練を実施していく。またボランティア方の参加・協力を増やしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅医療マッサージの利用、訪問歯科の利用		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーに加わって頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医への定期受診については可能な限りご家族様をお願いをし、入居者の現状把握をして頂いている。		

グループホーム天寿

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しての接遇の基本については常に職員間でも話し合っている。	○ 基本的な接遇について意識をもって対応させて頂く。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	YES・Noだけではなく、選択できる機会をつくるよう留意している。選択肢の数には認知症のかたに対しての配慮している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の利用者様の意見や状態に合わせた生活が作れるよう努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族様にご協力頂き、本人の好みのものをお買い求めいただいている。昔からの好みをしているご家族様に同行いただくことをお願いし、協力いただいているご家族もある。	○ 日頃から本人が自分で選んで好みのものを購入できるお買物の機会を増やして行きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が作成した献立を参考に時には同じ食材でお好みや体調に合わせた献立に変更しご提供させて頂くこともある。土日の食事は好みを直接伺いそれを取り入れた献立を考え準備から片付けまでを一緒におこなっている。	○ ホットプレートを活用し目の前で調理し目でも楽しめる食事作りに留意している。季節にあった食材・献立作りにも留意している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	直接聞き取りを行い、好みのものを献立に取り入れるよう努めている。防災上、館内は禁煙としている。	○ 利用者の誕生日には本人希望の献立を選択頂き、提供するようになっている。おやつは近くのお店へ買物に出掛けていただき、お好みのものを購入して頂いている。

グループホーム天寿

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現段階において、オムツ使用の方の割合は多いが、排泄チェック表を作成し、全利用者の排泄状況の把握に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	それぞれの入浴の習慣に合わせて入浴時間帯には配慮している。	○	今後「入浴は毎日したい。」とおっしゃる方がおられた場合を考えて体制を整えておく必要がある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室は個々の寝具・ソファーが配置されており、個々の身体にあったものになっている。共同スペースである居間にはソファーやテレビが配置されており、のんびり過ごせる空間作りに努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人が得意とされていること、好きなことをアセスメントし、拒否が無いときはその方の役割として様々な場面でお手伝いいただいている。他にもレクリエーションとして様々なことに取り組んでいる。	○	もっと外出機会を増やして行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る限り、ご本人様にお財布をお持ち頂き、可能な範囲で買物のお支払いもして頂いている。出納に関しては職員がチェックし、記録にとっている。一部の方は全て事業所で管理させて頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気やそのときの状態に合わせて無理の無い程度の外出を心がけている。	○	もっと外出機会を増やして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きたい所を伺い、無理の無い範囲で外出できるよう季節に応じて外出して頂いている。	○	ご家族の協力を得て、公共交通機関をつかった外出機会をもっと増やして行きたい。

グループホーム天寿

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかけられる方、お手紙が書ける方には職員の見守りのもと行って頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	曜日、時間帯を問わず、ご家族様が来れる時、来たいと思われたときに来所いただけるようお伝えしている。また秋の家族会では家族様と一緒に花の種や苗を蒔き、その成長の楽しみでも来所いただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目指し意思統一を図っている。	○	1名の入居者様の状態により、他の入居者様へのサービス低下を防止する為に、門扉には施錠をさせて頂いている。それによりその他8名の方に対してのケアの質の低下はないが、今後施錠なしでもサービス提供ができる方法を考慮していかなければならない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面の門扉には2重の施錠を施行している。	○	今後このような施錠が行わなくても良くなるようなケアの方法を熟練し考えていかなければならない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の動向を把握し、安全にお過ごしいただけるよう、所在確認や状態確認を常に職員間で行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬・洗剤・刃物は直接入居者様の目に付かないところ、手の届かないところで保管し、危険回避に留意している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	月に一度職員間で緊急時対応訓練と題し、課題となる危険因子について抽出し、話し合いやマニュアルの作成、見直し、訓練を行っている。事故発生の場合には報告書の作成、検証・カンファレンスの開催を行う。それらの記録は上司へ提出する。定期的な消防訓練も行い、関係所管からの指導を頂いている。		

グループホーム天寿

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時のマニュアルの見直しをおこなった。また全職員が緊急時の対応が出来るよう、月に1回の緊急対応訓練内で応急処置についての勉強会を行っている。地域の消防署で行われている。緊急対応講習への個人的参加も促している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月の緊急対応訓練では定期的に見直し、確認を行っている。近隣住民の方との連携は取れていない。	○	自治会の防災訓練には参加し、協力いただけるネットワーク作りに努めていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	各居室担当・管理者が中心となりリスクについて検討している。その内容については事前にご家族様にもお話をさせて頂き、協力をお願いすることもある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを行い、「いつもと違う」時には併設デイサービスの看護師に相談したり、家族に連絡して病院受診をお願いしたり、こちらで緊急で受診援助することもある。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際には、その結果や服薬について記録に残している。記録は全職員閲覧できる為、情報の共有をはかっている。処方箋は別にファイルに閉じ、確認、閲覧できるように宿直室にて薬と一緒に保管している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	常日頃より水分量には留意している。またなるべく自然排便が可能となるよう食飲物にも留意している。主治医より便秘薬処方頂き、便秘時には服用頂くよう準備はしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きチェック表を作成し、歯磨き誘導している。また就寝前には入れ歯使用者には専用液を購入いただき、入れ歯の清潔に留意している。		

グループホーム天寿

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	要観察状態の方においては食事摂取量と水分摂取量を記録させていただいている。また栄養士の立てた献立を参考にし、入居者個々の状態にあった栄養素、摂取カロリーを考慮して提供させていただいている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルの作成、予防、対応策の実行研修への参加に努めている。利用者や職員はインフルエンザ予防接種を受けている。	○	「家庭的である」ことを大切にしながらも、清潔に留意し、施設としての最低限の消毒や対策を考え、実践していくことが必要。気温や換気についてももう少し敏感になり実践していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	主に食事担当者が中心となって食材管理をおこなっている。	○	担当者だけではなく全職員が常に清潔を意識し、冷蔵庫や調理器具の整理整頓、清掃に努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	毎日の清掃に留意している。防臭にも配慮している。庭に花を植えたり、それらを切って玄関や各居室に一輪飾ったりして明るく、和みやすい自然体を大切にしたい雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓は常に意識している。「家庭的」であることを大切にして「しつらえ」には留意している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有場所にはソファやちゃぶ台を設置し、お好きなところでお好みに過ごしていただけるよう工夫している。季節に応じてテラスに絨毯を敷き、座布団を置き、日向ぼっこや、ごろ寝が出来る環境を用意している。		

グループホーム天寿

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持ち込んでくださっている方もおられる。また洋室に畳を敷かれてご自分が過ごしやすいように改装されている方もいらっしゃる。基本的にお部屋はご本人とご家族様が考えた配置でお部屋づくりをしていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	感染症予防の観点からも換気には注意を払っている。湿温計の設置にて常に確認できる状態にしている。	○	全ての職員が意識をもって取り掛かれるよう努力する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段・トイレ・浴室・玄関の上がりかまちには手すりが設置されている。建物自体は完全なバリアフリーにはせず、あえて段差を残し、生活の中でのリハビリ、身体機能の維持を意識をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室のタンスには何が入っているのかが本人でも解るようにシールで書き出して、整理整頓し、混乱されることを防止している。共有場所であるトイレなどは表示して一人でも通えるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気に応じて庭を活用している。洗濯物や布団を干したり、入居者様と一緒に草抜きをしたり、花や夏の日よけも考慮した野菜作りも行っている。庭で食事やおやつを食べたり、家族会でのバーベキューなどで活用している。また様々な行事にも活用されている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム天寿

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

常に入居者様の「今」に着目し、今必要なケアを必要なだけご提供できるよう努めています。またグループホームという小規模であるが由に可能な個別介護がより充実できるよう、課題についてじっくりとアセスメントし、解決策を見出す為のカンファレンスにも力を注いでおり、職員のケアの統一が図れるようになってきている。グループホームだからこそ可能な家庭的な雰囲気を大切に、常に入居者様の話し声、笑い声が響く和やかな雰囲気があり、入居者様同士、時には職員(節度をもって)と入居者様の口げんかもみられますが、グループホーム本来の入居者様と職員がより近い家族的な存在でいられるからだと考えています。入居者様にとって堅苦しくないグループホームであり、和める、安心できる雰囲気の中で一日が過ぎていく施設でいられる事をモットーにしています。とても明るく・楽しいグループホームです。